



## 後悔しない最期の時の迎え方

本書の著者は立川在宅ケアクリニック開業から10年間、在宅緩和ケアを通じてがんの患者さんを中心に自宅で看取ってきた。その数は1500人にのぼる。

死から目をそむけることなく真っ直ぐに見つめ、患者さんと家族のそばに寄り添ってきた著者。

人が死ぬとき、どのような症状が出るのか、そしてそれを受け入れるにはどういう処置をとるべきなのか。最期には最期の対処の仕方があると、井尾さんは明らかにする。

最期のときを、自宅で迎えたいと考えるがん患者さんは6割。だが実際は、それを実現できるのか、不安に思う人が7割近くいるという。

しかし同クリニックでの10年間のさまざまな最期、ドラマのエピソードから、在宅で最期のときを過ごすことは、実現できるのだと確信する。

もし自分が、そして家族が死を前にしたとき、どう最期を生きるかを、今1度じっくり考える時間をくれる1冊だ。(秦)

井尾和雄著  
現代書林  
定価 1,470 円 (税込)